

# 第63回 石川県視聴覚教育研究大会 七尾鹿島大会

## 公開研究会

《 大会主題 》

情報を主体的に活用し

「自ら学ぶ力」をつけるための視聴覚教育の在り方を追求しよう  
～ ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを目指して～



令和5年11月10日(金)

七尾市立和倉小学校



和倉温泉PRキャラクター  
わくたまくん

- <主催> 石川県小中学校視聴覚教育研究協議会  
七尾市学校教育研究会視聴覚教育・教育工学研究会  
鹿島郡学校教育研究会視聴覚教育研究部会
- <共催> 七尾市教育委員会 中能登町教育委員会 NHK金沢放送局
- <後援> 石川県教育委員会

## 目 次

ご挨拶	.....	1
大会日程	.....	2
大会研究主題と解説	.....	3
記念講演	.....	4
<b>公開授業指導案</b>		
<b>【大会当日公開(11月10日)】</b>		
小学校指導案 3年 総合的な学習の時間(七尾市立和倉小学校)	.....	6
小学校指導案 6年 国語科(七尾市立和倉小学校)	.....	12
<b>【オンデマンド公開】</b>		
小学校指導案 6年 社会科(中能登町立鹿西小学校)	.....	18
中学校指導案 1年 保健体育科(七尾市立七尾中学校)	.....	24
令和4年度 of 取組	.....	30
実行員会組織一覧	.....	48
校舎平面図(七尾市立和倉小学校)	.....	49

## ご 挨拶

石川県小中学校視聴覚教育研究協議会  
会 長 濱田 貴宏

令和5年度第63回石川県視聴覚教育研究大会（七尾・鹿島大会）が、関係各位のご尽力により、昨年度に引き続きの参集型、そしてオンラインのハイブリッド開催できましたことを心から感謝申し上げます。

さて、皆様ご存じの通り、現行学習指導要領には「情報活用能力」という言葉が明確に記載されています。この言葉は、各教科等の枠組を超えた全ての学びを支える基盤の1つとして、言語能力、問題発見・解決能力と並んで位置づけられているものです。

現状を見てみると、子どもたちの生活の中には当然のようにIoTやAI、ICT等が入り込んでいます。例えば、スマホからの遠隔で操作できる家電類。自宅の様子をリアルタイムで確認できる通信技術等。一昔前と比べると本当に便利な世の中になっています（反面、危険も増しています）。

最近では7月4日付で文部科学省から「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が出され、各市町ではそれを受けたガイドラインが通達されていることと思います。生成AIを活用していく際にメリットとデメリットを十分理解した上で適切に利用していく方向性が示されています。

また、GIGAスクール構想の実施に伴い、日々の授業では子どもたちの1人1台端末使用が当たり前となってきています。昨年度は、前年度の実績を踏まえ、いかに効果的に活用するか、県内どの地区でも質的向上が求められていました。今年度は、さらに歩を進め、個別最適な学びと協働的な学びの往還にどのように位置づけ、活用することが子どもたちの心に火をつけ、学びを保障していけるのか、本当にそのタイミングでICTを活用することが妥当なのか、実態に即した運用が求められていくのではないかと感じています。

そして、上記のことを意識しながら、予測不可能かつグローバル化がさらに進展するこれからの世の中に、クリエイティブかつイマジネイティブに生き抜いていくことを求められる子どもたちに切り込んでいくことが、大会研究主題である「情報を主体的に活用し、「自ら学ぶ力」を育てるための視聴覚教育の在り方を追求しよう～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを目指して～」に迫ることになると考えます。

最後になりましたが、今大会開催にあたり、共催者としてご協力いただいたNHK、ご支援賜りました石川県教育委員会ならびに七尾市教育委員会、中能登町教育委員会、多大なご尽力を賜りました七尾市および鹿島郡の先生方や関係機関の皆様、大会事務局の先生方に心からの感謝と御礼を申し上げ、加えて、これからもご指導・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

# 大会日程

13:10 13:30

14:15 14:35

15:05 15:30

16:40

受付	公開授業	移動	分科会 (授業整理会)	移動	記念講演
----	------	----	----------------	----	------

## 公開授業 13:30～14:15

学年・組	教科等	単元・題材名	授業者	場所
3年1組	総合的な 学習の時間	ふるさと和倉のステキ大発見！ 和倉のステキを調べよう！伝えよう！	寺井 怜子	3年1組教室 〔2階〕
6年1組	国語科	和倉っ子PR大使が日本文化の魅力を 発信します！ 「日本文化を発信しよう」 「情報 調べた情報の使い方」	西田 泰子	6年1組教室 〔3階〕

※公開授業は、11月20日(月)～12月1日(金)にオンデマンド配信します。

## 分科会 (授業整理会) 14:35～15:05

	場所	教科	指導・助言
第1分科会	図書室 〔2階〕	3年総合的な 学習の時間	石川県教育委員会 中能登教育事務所 指導主事 中村 友律 氏
第2分科会	English Room 〔3階〕	6年国語科	石川県教育委員会 中能登教育事務所 指導主事 黒崎あすか 氏

## 記念講演 15:30～16:40

場所	演題・講師
視聴覚室 〔3階〕	演題 「自ら学ぶ力」をつけるための学校と家庭学習におけるICTの活用 講師 NHK放送文化研究所 メディア研究部 主任研究員 宇治橋 祐之 氏

※記念講演は、11月20日(月)～12月1日(金)にオンデマンド配信します。

## アンケートフォーム



アンケートの回答にご協力をお願いいたします。

左記の二次元コードから公開授業や大会運営についてのご意見や感想等をご記入ください。



<https://forms.office.com/r/FGp8YRAXjI>

情報を主体的に活用し、  
「自ら学ぶ力」をつけるための視聴覚教育の在り方を追求しよう  
～ ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを目指して ～

### ○学習指導要領の理念と情報活用能力

学習指導要領「総則」において、児童生徒の生きる力を育むために、学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で

1. 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。
2. 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。
3. 学校における体育・健康に関する指導を、児童生徒の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

と規定している。

情報活用能力においては、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、教育課程全体を通じて確実に育成すると規定し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善にむけて ICT を活用した学習活動の充実に努める旨を規定している。特に小学校においては、情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動や、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施しなければならない。

### ○七尾鹿島大会にあたって

GIGA スクール構想によって、教師及び児童生徒に1人1台端末等が整備された。当初は、教師も児童生徒も ICT の活用に戸惑う場面が多かったが、まずは授業で端末を使うこと、慣れることから始めた。各学校において GIGA 校内研修推進リーダーを中心として、授業における ICT の効果的な活用についての校内研修や情報共有を進めていくことで徐々にではあるが、児童生徒は学習ツールの一つとしてスムーズに端末を扱い、教師は授業で活用できるようになってきた。また、令和4年度においては、「有効であった ICT 活用による授業実践」を七尾市内及び鹿島郡内で共有し、授業力向上につなげることができた。

今年度は、各教科における資質・能力の育成につながるように、授業で ICT の良さを生かして、より効果的に活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指してきた。今大会では、「主体的な学び」「対話的で深い学び」につなげることをキーワードとして、「自ら学ぶ力」を引き出すために、授業における ICT 活用の工夫を重点に研究し、3校（七尾市立和倉小学校・中能登町立鹿西小学校・七尾市立七尾中学校）の授業を公開する。

【記念講演】

演 題 「『自ら学ぶ力』をつけるための  
学校と家庭学習における I C T の活用」

講 師 NHK 放送文化研究所

メディア研究部 主任研究員 宇治橋 祐之 氏

[MEMO]



## 第3学年1組 総合的な学習の時間指導案

日 時：令和5年11月10日（金）第5校時

場 所：3年1組教室

授業者：寺井 怜子（七尾市立和倉小学校）

- 1 単元名** ふるさと和倉のステキ大発見！ 【SDGs11】  
和倉のステキを調べよう！伝えよう！

### 2 単元の目標

和倉のよさや特色について調べ、情報を収集・整理し、まとめる活動を通して、自分たちが生活しているふるさとには様々な魅力があることに気付き、そのよさを他の地域の人へ伝えていく方法について考えるとともに、地域の一員としてふるさとを愛し生活していくことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域のよさや特色，それに関わる人々の取り組みや思いに気付き，理解している。 ②地域のよさや人々の思いを知るために，目的や対象に応じた方法で情報を収集・整理・まとめる活動を実施している。 ③地域の魅力への理解は，地域のよさや特色，それに関わる人々の思いを探究的に学習してきた成果であることに気付いている。	①課題解決に向けての方法や手順について考え，解決の見通しをもっている。 ②地域のよさを知るために必要な情報や手段を選択して，多様に収集し，蓄積している。 ③必要な情報を取捨選択したり，比較・関連付けたりしながら整理し，解決に向けて考えている。 ④調べたことをもとに，自分の考えをまとめ，表現している。	①地域のよさや特色に関心を持ち，探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働的に学び合おうとしている。 ③和倉のステキ調べを通して，地域との関わりを深め，地域の一員としての自覚をもとうとしている。

### 4 指導にあたって

#### (1) 単元について

和倉は、開湯1200年の歴史ある温泉街であり、大きな旅館が立ち並び、波おだやかな七尾湾に面している。近隣にはのとじま水族館や輪島などの観光資源が多数あることから、能登半島観光の宿泊拠点として栄えてきた。全国各地から観光客が「温泉」と「食」だけでなく、地域の「豊かな自然や歴史・文化」、地域住民と触れ合い、街歩きを楽しむことができるように地域の人々や商店街、旅館が中心となって、地域の活性化と持続可能な街づくりへの工夫をしてきた（SDGs11）という歴史もある。

本単元では、学校教育目標の「ふるさとを愛し、自ら主体的に考えて行動し、たくましく生きる児童の育成」を受けて、自分たちが暮らす和倉について主体的・協働的に探究していく中で、和倉のよさに気付き、さらに愛着をもつことをねらいとしている。社会科の学習で自分たちの住む地域について学習することで、「もっと和倉について詳しく知りたい」という意欲を高める。そして、実際にその場へ行きフィールドワークをしたり、地域の人にインタビューをしたりして、ふるさと和倉のよさを児童自らが五感を通して実感することで、自分の言葉でふるさとのよさを伝えられるようになることが期待される。また、地域の様々な人とのふれ合いを通して、ふるさとのよさが続いてきたのは、たくさんの人々の思いや願い、努力や工夫が関係していることにも気付くことができる。活動を通して、私たちのふるさとである和倉に誇りをもち、ふるさとを大切にしようとする気持ちを高めていくことができる単元である。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、2年生の生活科の学習において、校区の様々な場所を探検し、学校近くの公園



で自然とふれ合い、身近な地域への愛着や理解を深めてきた。3年生になり、社会科「学校のまわりの様子」においては、生活体験をもとに話し合いをしたり、土地の高低や建物の様子について航空写真を見ながら話し合ったり、実際に歩いて見て回ったりしながら、地域の情報について大体を捉えることができている。

単元の学習にあたり、学級の児童の実態を把握するためアンケートを実施した。その結果は以下のとおりである。

	設問の内容	回 答
1	自分が住んでいる地域（和倉）のことが好きですか。	・はい 100% ・いいえ 0%
2	和倉のステキなところは、どんなところだと思いますか。	・温泉や旅館 ・景色 ・お店や飲食店 ・人がやさしい ・町がにぎやか（回答の多い順）等
3	「なぜ?」「どうして?」と思ったことは、自分から進んで聞いたり調べたりしていますか。	・はい 70% ・どちらともいえない 20% ・いいえ 10%
4	何かを調べる時はどのようにして調べていますか。 (複数回答可)	・お家の人に聞く 19人 ・本で調べる 9人 ・友達に聞く 10人 ・インターネットで調べる 6人 ・インタビューをする 2人

以上の結果から、自分たちの住むふるさと和倉の地域が好きだと感じている児童が多く、和倉が温泉街であることや海の近くにあり自然が豊かなことは理解している。しかしながら、地域に残る古い建物や温泉にまつわる歴史、地域の人の思いには今まで触れる機会が少なかったと言える。また、調べる方法としては、「家の人に聞く」や「本」という回答が多く、インタビューやインターネットを使って調べる経験はあまりない。

### (3) 指導観

単元の課題設定の場面では、第2学年までの生活科や第3学年の社会科の学習を振り返ることから「和倉」についてのイメージを広げ、知りたいことや疑問に思っていることを主体的に出し合い、可視化していく。また、コロナ禍や地震の影響で年間80万人を超えていた和倉温泉の観光客数が年間40万人にまで減っているという情報から、「たくさんの人に和倉のよさを知ってもらい、観光客をもっと増やしたい」という学習課題の設定につなげていく。

情報収集の場面では、和倉を象徴するものとして、温泉や祭り、名物などを実際に見学したり、インタビューしたりして理解を深めていく。その際、1人1台端末を活用することで情報を保存・蓄積していく。

整理・分析の場面では、テーマ別のグループに分かれ、整理したことを交流し合いながら多面的・多角的に考えることができるようにする。個々の情報を整理する際は、端末に保存した写真や見学記録を共有し、互いに考えを交流できるようにする。その対話を通して、和倉の魅力を伝えるための効果的な情報を精査し、PRする内容を絞り込んでいく。また、端末や情報を扱う際には、その都度、情報モラルやマナーについても指導していく。

さらに、社会科で身に付けた学びや、国語科で身に付けた情報を取捨選択したり、比較・分類したりする力やポスターを読む力、相手に伝わるように話の構成を考えたり、話し方を工夫したりする力を関連付けながら教科等横断的に学習を進めていくことで、各教科で身に付けた資質・能力を発揮させながらふるさとを愛する和倉っ子の育成を目指す。

### (4) 研究主題にせまるために

#### 重点1 主体的な学びにつなげるための効果的なICTの活用について

児童が自ら知りたい、見たい、聞きたい、記録に残したいという主体的な思いを大切にしながら情報を収集・整理するためにタブレットを用いる。写真や動画の撮影、インターネットによる情報収集のために活用したり、集めた情報をフォルダに整理して蓄積したりして、個からグループまたは全体に共有し学びを深めていく。

#### 重点2 対話的で深い学びにつなげるための効果的なICTの活用について

保存・蓄積した情報や作成したポスターを共有することで、対話しながら協働的に課題解決に向

かったり、互いのよさや改善点を話し合ったりすることができるようにする。また、発表練習の際に動画を撮影して見合ったり、振り返って話し合ったりすることで、より効果的な伝え方に改善できるようにグループや全体で学習を進めていく。

## 5 指導と評価の計画（本時 28 / 45 時間）

次	時	学習活動	【評価規準】（評価方法） ★ICTの活用 ○記録に残す評価
一・和倉のステキについて考えを広げよう	1 ～ 4	<b>学習のねらいや単元のゴールを共有する。</b> ・自分たちが住んでいる地域の魅力についてこれまでに学習して知っていることを出し合う。（町たんけんやお世話になった地域の人、自分のおすすめの場所など） ・町探検をしながら、自分たちがまだ知らないところや、詳しいことがわからないところがあることに気が付く。 ・観光客が多い和倉だが、コロナ禍で観光客の数が減っていることを知る。 ・「和倉のよさを他の地域の人にも知ってもらいたい」、「もっとたくさん観光客が来てほしい」という児童の願いから課題を設定する。	
	5 ～ 6	<b>自分の調べたいテーマを決め、計画を立てる。</b> ・和倉のもっと知りたいことや、伝えたいことの中から、自分のテーマを選択し、自己決定する。	○【思】①（言動観察、ワークシート）
二・和倉のステキを伝えるために、もっとくわしくなろう	7 ～ 20	<b>和倉にはどんなステキがあるのか情報を集める。</b> ・情報収集する方法を考えて、選ぶ。 ・グループに分かれて様々な収集の仕方でも情報を集める。 ・ステキな「もの・こと・場所」に関わる人の思いを知る。 （温泉旅館の女将さん 青林寺の住職さん 能登ミルクの社長さん 和倉観光協会の方）	○【態】①（行動観察、タブレット記録） ★インターネットで必要な情報があつた場合にはスクリーンショットをし、画像として記録する。 ★写真機能を使って記録する。 ★インタビューに行った際には、録画機能を使って映像を記録しておく。
	21 ～ 31	<b>誰に何を伝えたいか話し合い、和倉のすてきを伝えるポスターを作成する。</b> ・グループごとに集めた情報について出し合い、話し合いながら整理しまとめていく。 ・足りないところや、もっと知りたいところの情報を集め、伝えたいことを焦点化する。	○【態】②（行動観察） ○【知】①（タブレット記録） ★タブレットに記録・蓄積してきた情報をチームの仲間と共有しながら、話し合い、思考ツールを使って整理していく。
	本時	・伝えたい内容にあつた、図や写真を選び、ポスターを作成する。（文字・画像の大きさ・キャッチコピー・紹介する内容を考え、工夫する。） ・地域の人や高学年にアドバイスをもらいながら推敲する。	○【思】③（言動観察、タブレット記録） ★保存・蓄積した情報や整理した情報を見合いながら、タブレットを使って編集する。

三、和倉のステキをたくさんの人に伝えよう、広げよう	32 34 42	<p><b>ポスターを使って、和倉のステキを発信する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターとともに、どんな発表（アナウンス）をすれば和倉のステキが伝わるのかを考える。</li> <li>・ポスターとともに、和倉の魅力を伝える発表原稿を作り、練習する。</li> <li>・中間報告会をし、よい発表の仕方について話し合い、グループにいかす。</li> <li>・PR動画を作成し、不特定多数の人にも見てもらえるようにする。</li> </ul>	<p>○【思】④（ポスター、原稿、動画）</p> <p>★発表の練習を動画に記録し、互いに見合うことで、資料の見せ方や話し方について課題を見つけたり、改善策を考えたりする。</p> <p>○【態】③（言動観察、振り返り）</p>
	43 45	<p><b>学習を振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオしていたものを振り返りながら、課題解決の過程で身に付いた力や成長したことなどをふりかえる。</li> <li>・和倉のステキを未来に残すために自分たちにできることを考える。</li> <li>・お世話になった地域の方にお礼の手紙を書く。</li> </ul>	<p>○【知】③（言動観察、振り返り）</p>

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

和倉のよさを伝えるために必要な情報を取捨選択したり、比較・関連付けたりしながら、選び出し、選んだ理由をつけて説明することができる。

### (2) 評価規準

和倉のよさを伝えるために必要な情報を取捨選択したり、比較・関連付けたりしながら、選び出し、選んだ理由をつけて説明している。 【思考・判断・表現】

### (3) 使用ツール

写真フォルダ、オクリンク、Canva

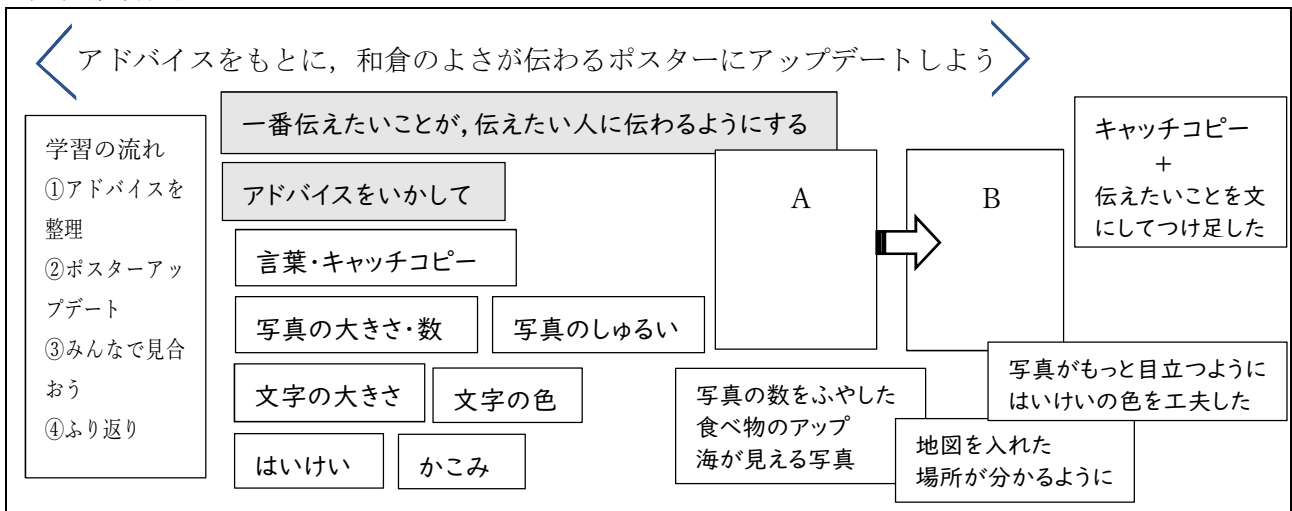
### (4) 準備 タブレット、情報メモ、電子黒板

### (5) 展開

段階	学習活動と児童の意識の流れ ○教師の主な発問 ・予想される児童の反応	◇教師の関わり 【 】評価 ★ICTの活用
つかむ3	<p><b>1 課題をつかみ、見通しをもつ</b></p> <p>〈 アドバイスをもとに、和倉のよさが伝わるポスターにアップデートしよう 〉</p>	<p>◇前時までの学びを振り返りながら、本時の学習を確認する。</p> <p>◇具体的なゴールイメージを共有しておく。</p>
課題探究22	<p><b>2 課題解決に取り組む</b></p> <p>○前回ポスターを見てもらってどんなアドバイスをもらったか整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花火の場所も入れるといいと言われたよ。</li> <li>・ライトアップの写真も入れてほしいと言われたよ。</li> <li>・字を見やすい色に変えた方がいいとアドバイスをもらったよ。</li> </ul>	<p>重点2</p> <p>★オクリンクにポスターともらったアドバイスを整理することで、改善への見通しをもつ。またそれを共有することで、対話しながら協働的に作業を進められるようにする。</p>

<p>ふかめる15</p> <p>振り返る5</p>	<p>○もらったアドバイスをいかして、さらに伝えたいことがより伝わるようなポスターにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足湯に入りながら海が見えることを伝えたいから、この写真に変えてみようかな。</li> <li>・ライトアップの写真も入れてほしいと言われたから、この写真を付け足したよ。</li> <li>・場所がよくわかるように、地図をつけたしてみたよ。</li> <li>・キャッチコピーの色を変えたけど、どうかな。</li> </ul> <p><b>3 全体で共有する</b></p> <p>○他のグループの進捗状況を聞き、ワールドカフェで自分やグループにいかしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人…こんなアドバイスをもらったので、ここをこのように変えてみました。ここは、迷っているけど、どちらがいいかな？</li> <li>・聞く人…足湯と景色が両方入るようにしたんだね。どんなところか、わかっていいね。…背景を迷っているんだね。ぼくは、こちらの方が字が目立つのでいいと思うよ。</li> </ul> <p><b>4 振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足湯からの景色のよさが伝わるように海が見える写真を選ぶことができたよ。これで、来たいと思う人が増えるといいな。</li> <li>・○○を伝える写真がなかったから、次までに準備しておきたい。</li> <li>・観光会館の方のアドバイスで、写真を増やしたので、さらに良くなったと思うよ。もう一度見てもらいたいな。</li> </ul>	<p>重点1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★端末を使って蓄積した情報を見返したり、比較したりしながら、取捨選択していく。</li> <li>★大きさ・色・配置を変えながら、何パターンか作成してみる。</li> </ul> <p>◇相手・目的を意識しながら内容を改善するようにアシストする。</p> <p>◇どのような視点で話をしたり、話を聞いたりするか確認をする。</p> <p>◇伝えたいこととポスターの内容が合っているかにも着目してお互いに見合うようにする。</p> <p>【思】③（言動観察、タブレット記録）必要な情報を取捨選択したり、比較・関連付けたりしながら、解決に向けて説明している。</p> <p>◇本時のはじめに共有したチェックリストを見ながら、本時の学びを振り返るようにする。</p>
----------------------------	--	--

(6) 板書計画





## 第6学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和5年11月10日（金）第5校時  
場 所：6年1組教室  
授業者：西田 泰子（七尾市立和倉小学校）

- 1 単元名 和倉っ子PR大使が 日本文化の魅力を発信します！  
「日本文化を発信しよう」「情報 調べた情報の使い方」

### 2 単元の目標

- ・文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開について理解することができる。 【知識及び技能】（1）カ
- ・筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えることができる。 【思考力，判断力，表現力等】B（1）イ
- ・引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【思考力，判断力，表現力等】B（1）エ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力，人間性等】

#### 【単元で取り上げる言語活動】

単元名を「和倉っ子PR大使が 日本文化の魅力を発信します！」と設定した。既習の『鳥獣戯画』を読むで習得した評価語彙や絵や図の使い方の工夫，構成のワザ等を活用し，パンフレットは，七尾や和倉の文化の魅力を伝えられるようにする。和倉を訪れる観光客に見てもらふことで，目的意識や相手意識を明確にして取り組み，日本文化の価値について理解を深め，発信することができるようにする。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開について理解している。	①「書くこと」において，筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えている。 ②「書くこと」において，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	①粘り強く，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって，七尾や和倉の文化の魅力についてパンフレットにまとめることに取り組んでいる。

### 4 指導にあたって

#### （1）教材観

本単元「日本文化を発信しよう」では，特に，学習指導要領の〔思考力，判断力，表現力等〕「B書くこと」第5学年及び第6学年における指導事項（1）の「イ」及び「エ」に重点的に取り組む。

前単元『鳥獣戯画』を読むの学習において，児童は論の展開や表現の工夫や絵の表し方，評価語彙などについて学ぶ。より多くの語彙を学び，書き表し方を獲得することは，豊かな表現力を高めることになり，自分の考えの発信力を高めることにもつながる。

本単元は，これまでの学びをいかして七尾や和倉の文化について調べ，調べたことをもとに構成を考え，パンフレットを作成する。これは七尾や和倉の文化の良さが読み手に伝わるように言葉を引用したり図表やグラフ，絵，写真などを用いたりして，書き表し方の工夫をしていくのに最適な教材となっている。ここでの学びは，第6学年で学習する「大切にしたい言葉」「思い出を言葉に」の教材へとつながる。

## (2) 児童観

本単元の学習にあたり、学級の実態を把握するためレディネステストを実施した。その結果は以下のとおりである。

	設問の内容	正答率
1	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【記述式】	73.3%
2	読み手に分かりやすく伝えるために工夫して書くことができる。 【記述式】	71.4%
3	話の内容を捉え、文章に書き表すことができる。 【記述式】	78.5%

以上の結果から、図表やグラフを適切に用いて、書き表す力や目的、意図に応じて自分の考えをまとめる力、読み手に分かりやすく伝えるために工夫して書く力に課題があることが分かった。また、授業においても、図表や資料を適切に取り取り、自分の考えを書くことが苦手な児童が見られる。

## (3) 指導観

本単元の第一次では、既習の『『鳥獣戯画』を読む』での学びをいかして、七尾や和倉の文化の魅力を伝えるためのパンフレット作りを行うことを確認する。「七尾や和倉の文化について調べたことや体験したことについて、魅力や良さを観光客に伝えよう！」と、児童に投げかけることで、目的意識を高める。

また単元全体を通して、『『鳥獣戯画』を読む』で学んだ論の展開や評価語彙、絵や図の効果的な使い方などをいかして、パンフレットを作成できるようにする。そのために、端末による情報の蓄積や既習の掲示を活用しながら学習活動に取り組むことができるようにする。

第二次では、七尾や和倉の文化について知り、その魅力について考える機会を設定する。児童の興味・関心を高めるために、体験や知識を交流したりゲストティーチャーからお話を聞いたりする場を設ける。この活動を通して、学んだ情報を学習者主体となって自ら「伝えたい」という意欲を喚起し、七尾や和倉の文化の魅力を理解し、情報を蓄積し、整理していく。そして、七尾や和倉の文化の魅力を分かりやすく伝えるために、パンフレットの構成について考える。構成のモデルを提示し、これまで集めた情報を取捨選択し整理する。その際は、タブレットで情報を共有し、魅力を伝えるという視点で対話を通して整理する。さらに割り付けや文章の構成を考える際、タブレットを活用して、絵・図・写真や文章の内容を見直し、修正しながら、パンフレットを仕上げていく。

第三次では、完成したパンフレットの感想を、伝え合う場を設定する。そして、作成したパンフレットは、和倉観光協会等の協力を仰ぎ、観光客の方に見ていただけるようにする。

## (4) 研究主題にせまるために

### 重点1 主体的な学びにつなげるための効果的なICTの活用について

七尾や和倉の文化のどんな題材を伝えたいのかを学習者主体となって自己選択し、伝えたい魅力についての内容を自己決定する。そこで、端末のホワイトボード機能を用いて、イメージマップを作り情報を分類しながら、キーワードを見つけて整理する。そして、集めた情報について、テキストボックスを使って、内容ごとにまとめることで、伝えたい事柄を明確にする。また、端末に学びの振り返りを蓄積し、自己の学びを可視化することで、今後の学びに見通しをもてるようにする。

### 重点2 対話的で深い学びにつなげるための効果的なICTの活用について

端末を用いて、パンフレットに使う文や言葉、写真などを友達と交流し合い、伝えたい魅力が本当に伝わるか話し合う。そして端末を用いることで、友達の意見やアドバイスをもとに対話する。パンフレットの完成に向けて、タブレットで考えたことを交流し合う場を設けることで、パンフレットの内容や質を高めるために端末で操作しながら構成を工夫し、よりよく改善していく。

## 5 指導と評価の計画（本時 5 / 7 時間）

次	時	学習活動	【評価規準】（評価方法） ★ICTの活用 ○記録に残す評価
一	1	<b>学習のねらいや単元のゴールを共有する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識と目的意識を共有し、単元のゴールを設定し、学習計画を立てる。</li> <li>・どのような文化を取り上げるか題材を決定する。</li> <li>・どのように学習を進めるのか見通しをもつ。</li> </ul>	<b>★七尾や和倉の文化を調べる際に、本や新聞で調べるほかに、インターネットから文化の紹介サイトを検索したり動画を視聴したりして、必要な情報を収集し、保存する。</b>
二	2 ・ 3	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">七尾や和倉の文化の魅力を分かりやすく伝えるパンフレットにしよう！</div> <b>紹介したい七尾や和倉の文化について詳しく調べる。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本や新聞、インターネット等を活用し、情報収集を行う。</li> <li>・収集した情報は、タブレット端末で記録したりノート等を書いたりして記録を残す。</li> </ul> <b>パンフレットの構成を決める。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目ごとに情報を整理し、伝えたい情報を選択したりする。</li> </ul>	○【思】① （発言、ワークシート、タブレット） <b>★クラウドに保存してある紹介動画から必要なものを選び、視聴する。</b> <b>★パンフレットの構成を考えるにあたり、情報を整理するために、タブレットを用いて互いの考えを可視化する。</b>
	4 ・ 5 （本時） ・ 6	<b>割り付けを決め、下書きを書く。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最も伝えたいことを明確にし、割り付けを考える。</li> <li>・文章構成を考えて、下書きを書く。</li> <li>・どのように表現を工夫するのかを考え、下書きを書き進める。</li> </ul> <b>パンフレットを完成させる。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きに沿って記事を清書し、紙面を完成する。</li> <li>・魅力が伝わるパンフレットになっているか推敲する。</li> </ul>	○【知】① （発言、ワークシート、タブレット） ○【思】① （発言、ワークシート、タブレット） ○【思】② （発言、ワークシート、タブレット） ○【態】①（発言、行動観察、振り返り） <b>★タブレット端末で、ワークシートに情報を入力し、必要に応じて構成を変更する。</b> <b>★タブレット端末を活用し、書き進めることで、紙面を整えやすくするだけでなく、友達のパンフレットの紙面を参照したり、グループ内でアドバイスし合ったりする。</b>
三	7	<b>感想を伝え合う。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が作ったページや他のグループの友達が作ったパンフレットを読み、感想を伝え合う。</li> <li>・観光客の方に見ていただけるようにする。</li> </ul>	<b>★読み合った感想をタブレット端末に入力することで、お互いの良さを知る。</b>

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

### (2) 評価規準

「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

【思判表 B (1) エ】



(3) 使用ツール Word, パワーポイント, ホワイトボード機能, オクリンク

(4) 準備 学習計画表, パンフレット (モデル), 評価を表す言葉シート, 資料, タブレット端末

(5) 展開

段階	学習活動と児童の意識の流れ ○教師の主な発問 ・予想される児童の反応	◇教師の関わり 【 】評価 ★ICTの活用
つかむ 3	<b>1 課題をつかみ, 見通しをもつ</b> ○今日取り組むことを確認しましょう。 ・七尾や和倉の文化の魅力をより分かりやすく伝えるためには, どんな表現にするといいかな。 ・前回の授業で見つけた友達の表現の工夫を自分の文章にもいかしたいな。 〈七尾や和倉の文化の魅力が伝わるパンフレットにしよう!〉	◇前時までの学びや振り返りから, 児童が本時に取り組むことを確認する。
見通す 2	<b>2 見通す</b> ・今日は, 割り付けの真ん中の部分と下段の部分に書いたところを見直したいな。 ・七尾の四大祭りのことを伝えるために, どんな表現を使うとより良くなるか考えて直したいな。	◇パンフレットの質を高めるために, いつ, 誰と協働して見直すか自己決定できるように助言する。  <b>重点1</b> ★クラウドに保存してある自分や友達の振り返りを確認することで, 本時の自分の学びを見通したり, どの友達と協働するか自己決定したりすることができるようにする。
課題探究 32	<b>3 課題解決に取り組む</b> ○「七尾や和倉の文化」の魅力を分かりやすく伝えられるような表現について考え, 話し合みましょう。 ・まずは自分で考えて直してみるよ。 ・「和倉の花火」の三尺玉の大きさや迫力を伝えるためには, どんな言葉を使うといいかな。 ・「石崎奉燈祭り」の担ぎ手が大勢いるところや大きさは, 写真を使って説明したら分かりやすいね。友達と相談してみよう。 ・「です」「ます」を使っている部分もあるけど, 文末表現を言い切った形で書いてみよう。 ・見出しや小見出しの「□□について」のところを「□□を探る」の言葉に変えるといいね。	◇課題解決を図るためにチェックポイントを押さえ, パンフレットの作成にいかすことができるようにする。  <b>重点2</b> ★考えを深めるために, 作成中のパンフレットのデータを共有し, お互いによさや改善点を伝え合い, 構成の修正や加筆ができるようにする。 <b>【思】②</b> (発言, ワークシート, タブレット) 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。
振り返る 8	<b>4 振り返る</b> ・小見出しの言葉を工夫することで, より魅力を伝えられたと思います。 ・魅力を分かりやすく伝えられるような表現の工夫をするのは難しいなと思っていましたが, 友達と話し合うことで, 写真を大きくしたり, 文末を言い切った形にしたりするとよいことが分かりました。 ・次の時間には, 表現の仕方の部分をさらに見直したいと思いました。	◇タブレットに振り返りを蓄積しておき, 以前の振り返りと比較し, 本時の学びを自覚できるように助言する。  ◇次時の学習内容を予告し, 見通しをもつことができるようにする。

(6) 板書計画

③

★チエツクポイント

★表現の工夫  
言い切った形にする  
評価の言葉を入れる  
短い言葉で  
○○について↓○○を探る

似た表現でも  
印象が変わる！

伝えたいことが  
はっきり！  
すっきり！

伝えたいことが  
強調できるよさ

見出しの工夫  
大きな花火↓ズドンとひびく  
三尺玉  
大迫力！奉燈祭り  
和倉のおもてなしを探る  
青林寺の庭園のひみつ  
日本で三つだけの御便殿

文を書く時の工夫  
短い文で書く  
たとえを入れる（～のような）  
評価の言葉 見事な、国宝級の、最高！

「日本文化」の魅力を発信しよう  
七尾や和倉の文化の魅力が伝わる  
パンフレットにしよう！



## 第6学年1組 社会科学学習指導案

日 時：令和5年9月22日（金）第5校時

場 所：6年1組教室

授業者：真木 拓郎（中能登町立鹿西小学校）

### 1 小単元名 「武士の世の中へ」

### 2 小単元の目標

- ・世の中の様子，人物の働きなどについて，地図や年表などの資料で調べ，源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを理解することができる。また，調べたことを年表や文などにまとめ，武士による政治が始まったことを理解することができる。 【知識及び技能】
- ・世の中の様子，人物の働きなどに着目して，問いを見出し，源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いについて考え表現することができる。また，源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを関連付けたり総合したりして，この頃の世の中の様子を考え，適切に表現することができる。 【思考力，判断力，表現力等】
- ・源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いについて，予想や学習計画を立てたり，学習をふり返ったりして，学習問題を追究し，解決しようとする。 【学びに向かう力，人間性等】

### 3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などについて，遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べて，必要な情報を集め，読み取り，源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ，武士による政治が始まったことを理解している。	①世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して，問いを見出し，源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いについて考えを表現している。 ②源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを関連付けたり総合したりして，この頃の世の中の様子を考え，適切に表現している。	①源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いについて，予想や学習計画を立てたり，学習を振り返ったりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。

### 4 指導にあたって

#### (1) 教材観

本小単元は，小学校学習指導要領社会の第6学年の内容（2）ア（エ）「源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを手掛かりに，武士による政治が始まったことを理解すること。」（シ）「遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べ，まとめること。」イ（ア）「世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して，我が国の歴史上の主な事象を捉え，我が国の歴史の展開を考えるとともに，歴史を学ぶ意味を考え，表現すること。」に基づいて構成されている。「源平の戦い」，「鎌倉幕府の始まり」，「元との戦い」の3つの事象を手掛かりに武士による政治が始まったことを捉えることを主なねらいとする。

本教材は，絵画や地図，年表などの資料で調べ，整理し，まとめることを通して，武士の世の中について考えることができる。また，資料の読み解きを通して，時代の動きや人物の働きをつかむおもしろさを味わえる教材でもある。

#### (2) 児童観

児童は，前小単元「貴族の暮らし」の学習において貴族の生活や文化，日本風の文化が生まれたことを学習してきている。その際には，複数の資料を読み取って，事実から考えられることや当時

の人の思いについて考える学習を行ってきたが、資料を読み取ったことから考えを深めたり、関連付けたりすることが不十分な児童もいる。また、これまでの歴史の学習では、オクリンクやムーブノートに配布された資料を基に、調べたことや考えたことを表現したり、グループや全体で共有したりするために端末を使用してきた。その際多くの児童は、考えを持つことができれば端末を使用して、考えを表現することができていた。そこで、端末を活用して、いつでも友達の考えを見ることができるようになることで、全員が学習活動に取り組めるようになっていきたい。

本小単元を学習するにあたり、鎌倉時代に関連する用語・人物などに関する意識調査を実施した。結果は以下の通りである。

視点	回答内容
① 武士について知っているか。	知っている 79% ・戦う人 ・刀を持っている人 ・都を守る人 ・お殿様を守る人
② 源氏と平氏について知っているか。	知っている 14% ・兄弟 ・聞いたことだけある
③ 源頼朝について知っているか。	知っている 39% ・源義経の兄弟 ・男の人 ・名前を聞いたことだけある
④ 鎌倉幕府について知っているか。	知っている 43% ・聞いたことだけある ・鎌倉にある幕府

以上の結果から、本学級の児童は、言葉として聞いたことはあるが、この時代に関連する人物の働きや業績などについては、知らないことが分かった。歴史学習では、世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産などの我が国の歴史上の主な事象を捉えるために、資料を基に考察することは重要である。そのため、複数の資料を基に調べ、関連付けて考え、まとめる活動に取り組む必要があると考えられる。

### (3) 指導観

本小単元では、源頼朝が平氏打倒の兵を挙げた頃から鎌倉に幕府が置かれた頃までについて学習する。

まず、小単元の導入では、「武士のやかたのようす（想像図）」を基に、武士の生活の様子や武士と貴族の違いなどに着目させることで、都で貴族が栄えていた頃に、地方では武士が登場したことを捉えさせ、既習の天皇中心の国づくりや貴族のくらしと関連付けながら、武士の登場についての学習問題をつくる。

次に、調べる学習では、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いや関連する人物について取り上げて学習する。その際、絵画、地図、年表などの複数の資料を基に調べ、読み解いていく。また、資料を読み取る際には、歴史上の人物の活躍の様子、彼らの思いや願い、時代背景についても考えを深めることができるように、関連する用語・語句の意味を確認するようにする。また、調べる学習では、小単元を通じて、複数の資料を関連付けさせながら、読み取らせ、それを基に考えを表現する活動を取り入れることで学習を深めていく。

最後に、まとめる活動では、調べる活動を通して分かったことや考えたことを基に、武士の発生から元との戦いまでの世の中についての問題を作る。その際、世の中の様子や人物の働きに着目した解説文を考えることを通して、学習したことを改めて整理し、表現することで、理解をさらに深めていく。問題づくりやその解説を考えることを通して、資料を活用する力や歴史上の事象の様子や意味などを理解し、まとめる力を付けていく。

### (4) 研究主題にせまるために

#### 重点1 主体的な学びにつなげるための効果的なICTの活用について

本小単元では、小単元のゴールに資料と関連付けた問題づくりの活動を設定する。その際、児童

は毎時間ごとに問題づくりに生かせそうな資料をオクリンクやムーブノートのカードBOXに集めたり、教師が作った問題を解いてみたりすることで、小単元のゴールを意識できるようにする。本時では、オクリンクに配布した問題を解くことで、問題づくりの具体的なイメージを持つことができるようにする。

## 重点2 対話的で深い学びにつなげるための効果的なICTの活用について

本小単元では、オクリンクやムーブノートを活用する。それらを活用して、友だちの考えを参考に、自分の考えを深めさせたり、グループでそれぞれの考えを共有し、それらを整理し、考えをまとめさせたりする。グループ交流をする際には、話し合う視点をそろえることで、目的に応じた話し合いができるようにする。本時では、各自の作った問題をオクリンク、ムーブノートで共有することで、自分の問題づくりの参考にしたり、友達へアドバイスしたりするために活用する。

## 5 指導と評価の計画（本時7/8時間）

次	時	学習活動	【評価規準】(評価方法) ★ICTの活用 ・指導に生かすための評価 ○記録に残す評価
一	1	<b>学習問題をつくり、小単元のゴールを共有する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「武士のやかたの様子(想像図)」を基に、学習問題をつくる。</li> <li>・学習問題の予想をもち、学習計画を立てる。</li> <li>・学習したことを生かした問題づくりをすることを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     武士は、どのようにして力をつけたのだろうか。また、武士の世の中は、どのように変化したのだろうか。                 </div>	・【思】①(発言, 端末) ・【態】①(行動観察) ★オクリンク・ムーブノートを活用して、資料「武士のやかたの様子」、「力をつけてきた武士」を配布し、分かったことや考えたことから学習問題をつくる。
二	2	<b>平清盛の活躍について調べ、武士の政治の始まりと平氏の政治の特色について考える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の様子をつかみ、勢力をのぼしていった経緯について調べる。</li> <li>・平清盛について調べ、平氏の政治の特色について考える。</li> </ul>	・【知】①(発言, 端末) ★オクリンク・ムーブノートを活用して、資料「武士の戦い」、「貴族を守る武士」、「平清盛の年表」、「平家納経」を配布し、分かったことや考えたことをグループで共有し、まとめる。
	3	<b>源平の戦いについて調べ、鎌倉に幕府が開かれるまでの経緯をまとめる。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源頼朝、義経について知り、源平の戦いについて調べ、まとめる。</li> <li>・源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを知る。</li> </ul>	・【知】①(発言, 端末) ★オクリンク・ムーブノートを活用して、児童が自分で資料を選んで、源平の戦いについて調べ、まとめたことをグループで共有し、まとめる。
	4 ・ 5	<b>鎌倉の地図や幕府の位置、御恩と奉公の関係図、「政子のうったえ」などを基にして、源頼朝が、どうして鎌倉に幕府を開いたのか、どのように従えていったのかを考える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことについて、資料を基に考え、まとめる。</li> <li>・源頼朝が武士たちをどのようにして従えていたのかについて、資料を基に考え、まとめる。</li> <li>・武士の発生から鎌倉幕府のはじまりまでについて、ふりかえる。</li> </ul>	・【知】①(発言, 端末) ○【思】①(発言, 端末) ★オクリンク・ムーブノートを活用して、児童が自分で資料を選んで、源頼朝の行った政治について調べ、分かったことや考えたことを表現したり、振り返りを記入したりする。

	6	<p><b>元の大軍との戦い（元寇）の様子を調べ、この戦いが鎌倉幕府にどのような影響をおよぼし、幕府の力がどのように弱まっていったのかを考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元との戦いの様子をつかみ、元との戦いについて調べる。</li> <li>・元との戦い後の鎌倉幕府と武士たちの関係について考える。</li> </ul>	<p>○【知】①（発言， 端末）</p> <p>★オクリンク・ムーブノートを活用して、資料「蒙古襲来絵詞」，「防塁跡」，「モンゴルの広がり」を配布し、分かったことや考えたことをグループで共有し、まとめる。</p>
三	7 ・ 8	<p><b>武士の発生から元寇までの世の中について、資料と関連付けて問題を作る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の発生から元との戦いまでの世の中について分かったことや考えたことを資料と関連付けて問題をつくる。</li> <li>・前時に作った問題をワールドカフェ形式で交流する。</li> <li>・学習問題についてまとめる。</li> </ul>	<p>○【知】②（端末）</p> <p>○【思】②（端末）</p> <p>○【態】①（行動観察， 端末）</p> <p>★オクリンク・ムーブノートを活用して、問題を作ったり、振り返りを記入したりする。</p> <p>★オクリンク・ムーブノートを活用して、作った問題をワールドカフェ形式で交流する。</p>

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

調べたことと資料を関連付けた問題づくりを通して、武士による政治が始まったことを理解することができる。

### (2) 評価規準





調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。





【知識・技能】

### (3) 使用ツール オクリンク・ムーブノート





### (4) 準備 端末・電子黒板・提示用資料

### (5) 展開

段階	学習活動と児童の意識の流れ ○教師の主な発問 ・予想される児童の反応	◇教師の関わり 【 】評価 ★ICTの活用
つかむ 5	<p><b>1 課題をつかみ、見通しをもつ</b></p> <p>○次の資料を時系列で並べてみよう。</p> <p>A  B  C  D </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C→D→B→Aの順番かな。</li> <li>○どうして、その順番にしたのかな。</li> <li>・Cは平清盛、Dは源義経、Bは御恩と奉公、Aは元との戦いについての資料だから、人物や出来事の順番に並べるとC→D→B→Aです。</li> </ul> <p>&lt;武士や鎌倉幕府に関する問題を作ろう&gt;</p>	<p>重点1</p> <p>★オクリンクに配布した問題を解くことで、問題づくりの具体的なイメージを持たせる。</p> <p>◇資料のどこから答えを出したのかを問うことで、理由が答えの解説につながることを確認する。</p>
考える 15	<p><b>2 自分で考える</b></p> <p>○問題づくりには、2つの条件があるよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①資料を使う</li> <li>②答えの解説を考える</li> </ol>	<p>◇資料を活用する力や、歴史上の事象の様子や意味などを理解しまとめる力を付けるために、問題づくりの条</p>

<p>深める 20</p> <p>振り返る 5</p>	<p>・ぼくは、平清盛の年表と人物の絵の資料を使った問題を作ろう。</p>  <p>(年表) にあう人物はどれでしょうか。</p> <p>A                  B                  C</p>    <p>・答えは、Bの平清盛。</p> <p><b>3 友達と交流し、考えを深める</b></p> <p>○友達に、悩んでいるところを相談したり、問題を出してみても感想をもらったりしよう。</p> <p>・答えだけでなく、平清盛になる解説も言えるようにした方がいいと思うよ。</p> <p>・年表の出来事を答えの解説で使おう。</p> <p>○友達と話し合ったことを生かして問題を仕上げよう。</p> <p>・答えがBになる理由は、年表に書いてある出来事を見てみると、源頼朝の父を破るや太政大臣になる、中国との貿易を進めるなど平清盛に関係していることが書かれているからです。</p> <p><b>4 振り返る</b></p> <p>○ふり返ろう。</p> <p>・ぼくは、年表の出来事から平清盛だと分かることを答えの解説で書くことができました。平清盛は、中国との貿易を進めて力をつけたことが改めて分かりました。</p> <p>・私は、戦いの様子の絵の資料を使った並びかえの問題を作りました。武士は戦いを通して力をつけたことが改めて分かりました。</p>	<p>件を設定する。</p> <p>◇問題の形式に悩んでいる児童のために、いくつかのパターンを紹介する。</p> <p>重点2</p> <p>★各自の作った問題をオクリンク・ムーブノートで共有することで、自分の問題の参考にしたり、他の児童へアドバイスしたりすることにつながるようにする。</p> <p>◇児童の考えを深めさせるために、他の資料も参考にするように促したり、同じような内容の児童同士をつなげたりする。</p> <p>【知】(端末) 調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。</p> <p>◇振り返りの視点として、問題づくりを通して、よかったところ、よりよくなったところ、直したいところ、改めて分かったところを提示する。</p>
-------------------------------------	---	--

(6) 板書計画

<p>&lt; 武士や鎌倉幕府に関する問題を作ろう &gt;</p> <p>次の資料を時系列で並べてみよう。</p> <p>A                  B                  C                  D</p>     <p>元との戦い      御恩と奉公      平清盛      源義経</p> <p>答え C→D→B→A      解説までできるようにする。</p> <p>出来事や人物の活躍した時期から考える。</p>	<p>条件</p> <p>①資料を使う ②答えの解説を考える</p> <p>・並びかえ      ・選択      ・線つなぎ ・○×              ・間違い探し</p> <p>ふりかえり</p> <p>・よかったところ      ・よりよくなったところ ・直したいところ</p>
--	--





## 第 1 学年 3 組 保健体育科学習指導案

日 時：令和 5 年 1 0 月 1 2 日（木）第 5 校時  
場 所：サブアリーナ  
授業者：野作 公貴（七尾市立七尾中学校）

**1 単元名** B 器械運動 「マット運動」「認め合い・学び合いを通して、できた！楽しいを！」

### 2 単元の目標

・技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。

【知識及び技能】

・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① マット運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>○技能</p> <p>① 体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>② 全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。</p> <p>③ バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>① 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p> <p>② 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。</p> <p>③ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p>	<p>① マット運動の学習に積極的に取り組むとともに健康・安全に留意している。</p> <p>② よい技や演技に称賛の声をかけるなど、仲間の努力を認めようとしている。</p> <p>③ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p>

### 4 指導にあたって

#### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容の B 器械運動のマット運動にあたる。本単元では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることをねらいとした小学校までの学習をさらに発展させ、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技がよりよくできるようにすることを学習のねらいと

している。

マット運動は、単に技能面の向上のみならず、技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することや考えたことを他者に伝えること、互いのよい演技や一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め合うことを通して、支持的風土のある集団の育成や主体的・協働的に取り組める生徒の育成も期待できる単元である。

## (2) 生徒観

本単元を行う前に実施したアンケート結果は以下のようになった。

質問内容	回答	男子	女子	理由
保健体育が好きか	肯定的回答	20人	12人	運動が好き、できると嬉しい
	否定的回答	0人	3人	運動が苦手
マット運動が好きか	肯定的回答	4人	2人	楽しい、体を動かすことが好き
	否定的回答	16人	13人	できない、楽しくない
できる技は何か	男子	前転、後転、開脚前転、開脚後転、側方倒立回転など		
	女子	前転、後転、開脚後転、側方倒立回転など		

学級全体を見ると、男女ともに保健体育の授業に対しては好きと回答する生徒が多く、これまでの授業では、意欲的に取り組んでいる。しかし、マット運動に対して、好きでないと答えた生徒は多い。その理由としては、できないことや楽しさを感じていないことが大きな要因と考えられる。全体的に苦手意識はあるが、前転、後転といった基本的な技に関しては身に付いていると思われる。

学習を通して、毎時間の基本的な動きづくりや技の練習でできる喜びを感じさせ、発展的な技の習得では、ICTを活用した協働的な活動により、互いに良さを認め合い、学び合う活動の楽しさを感じさせることが必要であると考えられる。

## (3) 指導観

本単元の指導にあたっては生徒の実態を踏まえ、安全を確保した上で基本的な技のレベルアップを図りながら、互いの演技を認め合うことや技がよりよくできる楽しさや喜びを味わうことができるよう、次のことに配慮して、指導・支援を行う。

- ① 基本的な技の定着と新しく挑戦する技の要点を単元の前半に指導することで、主体的に技を選択したり、練習の場を工夫したりできる単元デザインとする。
- ② 単元を通して、自己が身に付けた技の完成度を高めるために、タブレットを活用し、互いの演技の出来映えを伝え合い、認め合う場を設定する。
- ③ タブレットに蓄積した振り返りや動画を活用し、単元を通して自己の変容を自覚すると同時に、自分に合った学び方を選択できるようにする。

## (4) 研究主題にせまるために

### 重点1 主体的な学びにつなげるための効果的なICTの活用について

オクリンクで見本となる動画を見たり、大型モニターでポイントを確認したりできる環境づくりを行う。また、自己の課題や成果及び次時に向けての振り返りをタブレット上のシートに蓄積する。

### 重点2 対話的で深い学びにつなげるための効果的なICTの活用について

ペアで動画を撮影し合うことや遅延再生アプリで動きを確認し合うことで、互いの良いところや課題を伝え合い、学び合いによって技能向上につながるようにする。

## 5 指導と評価の計画（本時7/10時間）

次	時	学習活動	【評価規準】（評価方法） ★ICTの活用 ・指導に生かすための評価 ○記録に残す評価
一	1	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>認め合い・学び合いを通して、できた！楽しいを！</b> </div>	
		<b>学習のねらいや単元のゴールを共有する</b> ・授業の進め方を確認する。 ・技の分類や名称を知る。	○【知】①（発言，振り返りシート）
	2	<b>接点技群・ほん転技群に挑戦する</b> ・技の分類や名称を知る。 ・技のポイントを理解する。	○【態】①（行動観察，振り返りシート） ★模範の動画で各技のポイントを提示する。 模範の動画をいつでも確認できるようにする。
二	3 4 5	<b>はじめ・なかで行う技を選択し練習する</b> ・自己のできる技を確認する。 ・技のポイントを伝え合う。 ・技をより滑らかにを行い，完成度を高める。	○【技】①（行動観察，振り返りシート） ○【思】②（行動観察，振り返りシート） ○【態】②（行動観察，振り返りシート） ★模範の動画と自身の動画を比較し，課題を自覚できるようにする。 ★グループで動画を撮影し合い，出来映えを伝え合う。
	6 7 8	<b>おわりで行う技を選択し練習する</b> ・模範の動画と自己の演技の比較から課題を見つける。 ・技のコツをつかむ。 ・技と技の繋ぎを考え，組み合わせて練習する。	○【技】②（行動観察，振り返りシート） ○【思】③（行動観察，振り返りシート） ○【態】③（行動観察，振り返りシート） ★模範の動画と自身の動画を比較し，課題を自覚できるようにする。 ★グループで動画を撮影し合い，出来映えを伝え合う。
三	9	<b>発表会に向けて，自己に合った課題の練習をする</b> ・発表会に向けて，構成した技を練習する。	○【技】③（行動観察，振り返りシート）
	10	<b>発表会を行い，技の出来映えを伝え合う</b> ・自己の習得した技を組み合わせて発表する。	○【思】①（オクリンク，振り返りシート） ★演技を撮影し，出来映えをグループで評価する。

## 6 本時の学習

- (1) 本時のねらい  
仲間と学習する場面で，技の完成に向けてよい点や改善点を伝え合う。
- (2) 評価規準  
提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に出来映えを伝えている。 【思考・判断・表現】
- (3) 使用ツール  
遅延再生アプリ，振り返りシート
- (4) 準備 マット，タイマー，大型モニター，個人用タブレット

(5) 展開

段階	学習活動と生徒の意識の流れ ○教師の主な発問 ・予想される生徒の反応	◇教師の関わり 【 】評価 ★ICTの活用
つかむ 10分	<p><b>1 準備運動を行う</b></p> <p>○どのようなことを意識して取り組みますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがをしないために体をほぐす。</li> <li>・技につながる意識で行う。</li> <li>・安全に注意する。</li> </ul>	<p>◇安全に留意するよう伝える。</p> <p>◇マット運動の技と関連する準備運動であることを意識して取り組むように促す。</p>
考える 3分	<p><b>2 基本的な技の練習をする</b></p> <p>○完成度を高めるために、どんなポイントに気を付けますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足を揃えることを意識しよう。</li> <li>・手をつくタイミングや突き放しに気を付けよう。</li> <li>・滑らかに回転できるようにやってみよう。</li> </ul>	<p>◇各技のポイントを確認することで、より完成度を高められるようにする。</p> <p>◇練習によって上達したことや技のポイントを意識して取り組む姿を認める声かけを行う。</p>
深める 30分	<p><b>3 課題を確認し、見通しを持つ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">             技の完成度を高めるにはどうしたらよいか？         </div>	<p>◇既習事項から本時につなげる。</p>
	<p><b>4 それぞれの課題に取り組む</b></p> <p>○各技のポイントを確認し、完成度を高めましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【倒立前転のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足を大きく振り上げる。</li> <li>・倒立から体を少し前に倒し、回転に入る。</li> <li>・マットを見る。</li> <li>・あごを引いて首を中に入れる。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【側方倒立回転のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後ろ足を勢いよく振り上げる。</li> <li>・手は足の先の延長線上に真っ直ぐつく。</li> <li>・開脚し、倒立の姿勢をとる。</li> <li>・手と足、腰を真っ直ぐ伸ばす。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【ロンダートのポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を上げてホップする。</li> <li>・足を大きく振り上げる。</li> <li>・真上で足を揃える。</li> <li>・両手で地面を押し放す。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【前方倒立回転跳びのポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両手を振り上げてホップする。</li> <li>・足を素早く振り上げる。</li> <li>・マットを見ながら突き放す。</li> <li>・体を反らせて着地する。</li> </ul> </div>	<p>◇前時での自分の演技の動画をもとに振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>◇自分の課題に応じた練習方法や練習場所を考え、選ぶように指示する。</p> <p><b>重点1</b></p> <p>★自身の映像と模範の映像を比較し、課題を明確にできるようにする。</p> <p>◇いつでも確認できるように各技のポイントを掲示する。</p> <p>◇巡回し、個々に応じたアドバイスを行う。</p> <p>◇技を習得するために、積極的に挑戦する姿や互いに学び合う姿に対して、認める声かけを行う。</p> <p><b>重点2</b></p> <p>★動画撮影や遅延再生アプリを活用し、課題に対しての出来映えを伝え合えるようにする。</p>



ま と め る 3 分  振 り 返 る 4 分	<p><b>5 まとめる</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を動画で確認する。</li> <li>・課題に応じた練習場所や練習方法を選ぶ。</li> <li>・仲間にアドバイスをもらう。</li> </ul> </div> <p><b>6 振り返る</b></p> <p>○グループでの活動や動画を活用することの良いところは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画で自分の動きをみることで、成果や課題が分かりやすかった。</li> <li>・アドバイスをもらうことで、できるようになった。</li> <li>・褒めてもらえてうれしかった。</li> </ul>	<p><b>【思】③（行動観察, 振り返りシート）</b> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>◇活動に対しての価値付けを行う。 ◇前時の初めに撮影した動画と本時の動画を比較し、自己の変容を自覚できるようにする。</p>
--	---	--

(6) 板書計画

<p><b>課題</b> 技の完成度を高めるにはどうしたらよいか</p> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動</li> <li>・基本技練習</li> <li>・レベルアップタイム</li> <li>・動画撮影</li> <li>・まとめ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を動画で確認する。</li> <li>・課題に応じた練習場所や練習方法を選ぶ。</li> <li>・仲間にアドバイスをもらう。</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 80%; margin: auto;"> <p>技の系統図 技の難易度表</p> </div>
---	--



## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践



1	七尾市立小丸山小学校6年
2	教科名 ・体育科「跳び箱運動」
3	本時の目標 ・助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。
4	使用したアプリ ・ミライシード(オクリンク)
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・かかえ込み跳びの動画、図をカードで送り、技のポイントについて確認する。 ・自分で跳びたい段数を選び、グループに分かれる。 (2) 展開(学び合い) ・グループ内で最初の一回を撮影する。 ・ポイントを適宜確認したり、友達に横から見てもらってアドバイスをもらったりしながら技の練習に取り組む。 (3) 終末 ・最後にもう一度動画を撮影し、一回目からの伸びを確かめる。 ・動画をもとに、振り返る。
6	児童・生徒の様子(振り返り、写真、タブレットの画面など) ・ポイントを確認しながら練習していた。 ・自分の動画を見て、できていないところを確認していた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">12/6 かかえこみ跳び</p>  <p>力強いふみきりができたか    A B C D</p> <p>ひざを素早く胸にひきつけられたか    A B C D</p> <p>ひざを曲げてやわらかく着地できたか    A B C D</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">動画</p>  </div>
7	成果(有効であったこと) ・動画で客観的に見ることができ、自分の課題を見つけ、振り返りがしやすかった。 ・1回目と最後の動画を見ることで、技能の向上が分かりやすかった。 ・カード上にて予めポイントを示し、選択式の振り返りにしたことで、時間の短縮に繋がった。 ・動画に残すことで、児童の良い例を全体に共有できた。
8	課題や改善点 ・動画撮影で時間が取られるため、運動量が減少した。





## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	七尾市立山王小学校4年
2	教科名 ・国語科「ごんぎつね」
3	本時の目標 ・登場人物の気持ちや変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
4	使用したアプリ ・ムーブノート
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・①場面ごとに、ごんと兵十のお互いの思いやり度（ハート）を、思いやりメーター上に置く。 ・②スタンプを置いた理由について、ノートに叙述をもとに理由を書く。 ⇒これらを予習で行い、課題を確認した後すぐに学び合いから始める。 (2) 展開（学び合い） ・スタンプ集計後、即学び合いから入り、予習で考えてきた理由を共有する。 ・問い返しをしたり、揺さぶり発問したりする等して、出てきた考えについて全員で考え、ごんと兵十の思いやり度について深める。 (3) 終末 ・深めた後に、広場を変えてもう一度思いやりメーターにスタンプを置き、考えの変容を見取る。学び合いを通じて思いやり度がどのように変化したかを全員で共有し、まとめを書く。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） ・友達がスタンプを置いた理由を聞いたがっている児童が多かった。 ・他の児童の意見を聞いて、考えが変容したことをまとめに書いている児童がいた。
7	成果（有効であったこと） ・他の友達がスタンプを置いた理由について聞いたがる児童が多く、学び合いを活発にできた。
8	課題や改善点 ・どの教科のどの単元でも共通して言える事ではあるが、ICT 端末を使うことで考えをすぐに共有できる反面、子どもたちの挙手・発表に対する必要感が薄れる。考えを共有した後の問い返し、揺さぶり発問をどうするか頭を抱えた。ICT 端末で考えを共有した後の、もう一歩踏み込んだ学び合い（子どもにとって必要感のある対話、本当に話したいこと）のために、ICT 端末の使用だけでなく、発問内容についても検討していきたい。

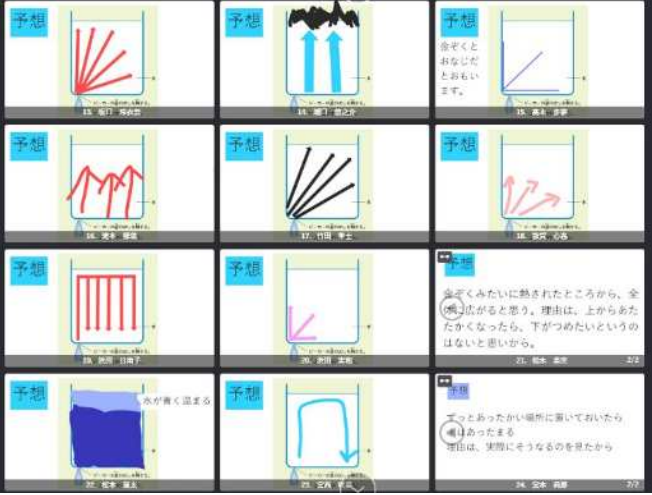
## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1 七尾市立天神山小学校5年	
2 教科名 ・国語科「大造じいさんとガン」	
3 本時の目標 ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	
4 使用したアプリ ・ミライシードのオクリンク ・デジタル教科書	
<p>5 授業内容：簡単な流れ</p> <p>(1) 導入 ・課題の確認</p> <p>(2) 展開（学び合い） ・「大造じいさんとガン」の話を聞き、心に残った文に線を引く。（デジタル教科書） オクリンクに本文のカードを送り、一番心に残ったところにマーカーで線を引き、提出 BOX 1 にカードを提出する。提出 BOX2 には、理由を書いたものを提出する。BOX1 だけを公開してどうしてそこが心に残ったのかをタブレットをもって交流する。交流した友達のカードをマイボードにコピーして交流した証を増やしていく。</p> <p>(3) 終末 ・交流して感じたことを振り返りとして書く。</p>	 
6 児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） ・理由は公開せず、線を引いたところだけをオクリンクで公開したことで、興味をもって交流していた。交流した相手のカードをマイボードに貼り付けることで、たくさんの友達と交流しようとしていた。	
7 成果（有効であったこと） ・主体的に学習に取り組むことができた。互いのカードを公開することで、クラス全員の考えを知ることができた。（教師も児童も）	
8 課題や改善点 ・あくまで ICT は道具の1つなので普段から PC を使い慣れることが大切。交流した友達のカードを貼り付けていただけだったのでそのカードにメモを残して（友達の考え）いけばさらに考えに広まりが見られる。	

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

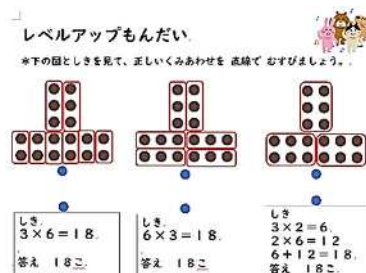
1	七尾市立朝日小学校4年
2	教科名 ・算数科「広さの表し方を考えよう」
3	本時の目標 ・既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、L字型の図形の面積の求め方を考え、説明することができる。
4	使用したアプリ ・オクリンク
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・L字型がどんな形かを考える。 (2) 展開（学び合い） ・図を添付したカードに書き込む。時間がある限りコピーして複数の意見を考える。 ・カード内の図に考え方と式を書き込み、提出ボックスに送信する。 ・提出されたものを教師がグルーピング機能を使って分け、児童のカードに色を付けてもらう。 ・色が同じ人と意見を確かめるか、違う色の人意見を聞きに行くか自己決定権を与えたうえで自由なペアで交流させる。 (3) 終末 ・自分のカードや気になった友だちのカードを自分のカードボックスに保存する。 ・まとめ・振り返りを自分のノートに書く。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） 提出ボックス(グルーピング)  提出ボックス(交流中) 
7	成果（有効であったこと） ・パソコンを活用することで複数の意見を考えることに手間がかからなかった。 ・グルーピングや色分けによって誰とペア活動をするかが明確になり、自己決定権を児童に与えたことで必要感を持って活動することができていた。
8	課題や改善点 ・ノートに思考のあとが残らない。 ・自由交流の時間と全体交流の時間配分。 ・発表の際に、画面共有機能やポイント機能を使えば、より子どもの集中力・理解が深まったかもしれない。

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践


1 七尾市立東湊小学校4年	
2 教科名 ・理科「物のあたたまり方」	
3 本時の目標 ・水はどのようにあたたまっていくのかについて、これまでに学んだことや経験したことを基に予想する。	
4 使用したアプリ ・オクリンク	
<p>5 授業内容：簡単な流れ</p> <p>(1) 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの物のあたたまり方を確認する。 キーワード 空気タイプ 金属タイプ</li> </ul> <p>(2) 展開 (学び合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で予想を立てる (オクリンク)</li> <li>予想を交流する。</li> <li>子どもたちの予想を全体で分類していく (グルーピング機能)</li> </ul> <p>(3) 終末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回の実験の見通しをもつ。</li> <li>ふりかえり</li> </ul>	
6 児童・生徒の様子 (振り返り、写真、タブレットの画面など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が自分の考えをもつことができた。</li> <li>交流する際にタブレットをみて「この人の考えを聞きたい」と主体的に交流することができていた。</li> </ul>
7 成果 (有効であったこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の考えが可視化できる。</li> <li>次時の実験で全員の結果と予想を比べることができる。</li> <li>子ども同士の交流に主体性が生まれた。</li> </ul>
8 課題や改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属タイプか空気タイプかそれ以外なのか、カードに色を付けて提出させることで分類が簡単にできそう。</li> </ul>

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践


1	七尾市立石崎小学校2年
2	教科名 ・算数科「九九をつくろう かけ算(2)」
3	本時の目標 ・乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。
4	使用したアプリ ・ミライシード オクリンク
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ①『いくつのまとまり』に注目できるように、パワーポイントを使って、既習を振り返る。 ② $6 \times 5$ の問題から6つ減った、工夫して答えを求める問題を提示する。 →今までの問題とは違うことに気付かせる。  (2) 展開 (学び合い) ①オクリンクで5枚カードを送り、自分の考えをいくつも書けるようにする。 ②ペアで自分の考えを説明し合う。 ③ペア活動後、全体で考え方を発表する。  (3) 終末 ・図と式を結び付ける適用題に取り組む。
6	児童・生徒の様子 (振り返り、写真、タブレットの画面など) ・同じ数ずつ囲んで、答えを求めることができている児童が多かった。
7	成果 (有効であったこと) ・5枚カードを送ってあったため、1つ考えを書いた子がすぐに次の考えを書くことができた。 ・早く書き終わった児童の考えを見ることで、考えをもてない子も持てるようになった。
8	課題や改善点 ・全員の考えを見ることができるようになると、考えをもてない子の助けになるという利点があるが、全体発表の必要感が減ってしまった。 →自力解決の時間、友達の考えを見る時間、考えをもてない子のための支援について時間配分をもっと考える必要がある。



## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	七尾市立和倉小学校5年
2	教科名 ・社会科「自然災害を防ぐ」
3	本時の目標 ・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について問いを見出す。
4	使用したアプリ ・オクリンク ・ムーブノート ・インターネット
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・災害に関する資料を見て、自然災害の種類を知る。  (2) 展開（学び合い） ・資料集や教科書、インターネット等を活用し、どのような場所で、いつ自然災害が起きるのかを自ら調べたい手段で調べる。 ・どのような場所で、いつ自然災害が起きるのか調べたことを伝え合う。  (3) 終末 ・単元の導入の1時間目であったため、学習課題を作ってまとめとした。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） ・タブレット内に複数の資料を提示し、児童自身が選択できるようにした。児童は、自分の使ってみよう資料を選び、調べていた。 ・児童の中には、インターネットからさらに詳しい資料を探し、自然災害についてまとめようとする児童もいた。
	
7	成果（有効であったこと） ・ムーブノートのスタンプ機能を活用し、地図上で地震が起きた場所をスタンプで示せるようにした。スタンプ機能を使った児童のカードを一括して提示することで、それぞれの考えを比較しやすいように資料を提示することができた。
8	課題や改善点 ・意欲の向上が見られた反面、個々の学習状況の見取りが適切にできず、支援が遅れたことがあった。インターネットでの情報収集の際には、調べることができるサイトを提示する等の工夫が必要だと感じた。

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践


1	七尾市立田鶴浜小学校4年
2	<b>教科名</b> ・総合的な学習の時間「施設にある福祉について調べよう！」
3	<b>本時の目標</b> ・学校や地域の施設が誰もがより快適に利用できるようになるためには何が必要か考えている。
4	<b>使用したアプリ</b> ・オクリンク
5	<b>授業内容：簡単な流れ</b> (1) 導入 つかむ ○施設を利用するときに困りそうな人にはどんな人がいるかな。→どんなことに困っているかな。 <学校や地域のしせつをだれもが気持ちよく利用するためには何が必要かな> (2) 展開（学び合い） 考える ○それぞれの施設で必要なことはなにかな。 目が不自由な人 手足が不自由な人お年寄り耳が不自由な人の視点で考える。 つかめる ○それぞれのグループで考えたことを交流しましょう。 <b>目が不自由な人</b> ・音声案内の場所を増やす。・声をかける。・手を引いてあげる。・点字の案内を増やす。 <b>手足が不自由な人</b> ・物をもってあげる。・手をかす。手伝う。・エレベーター <b>お年寄り</b> ・物をもってあげる。・手を引いてあげる。・ゆっくり大きな声で話す。 <b>耳が不自由な人</b> ・手話を覚える。・紙に書いて教えてあげる。 (3) 終末 振り返る ・他のグループの考えを聞いて、お年寄りの方だけでなく、自分に手伝えそうなことはいろいろありそうだと感じました。
6	<b>児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など）</b> <児童の振り返りから> ・インターネットで調べて、お年寄りの人がどんなことに困っているのか、そのときどんなことをしてあげると助かるのかが分かりました。
	
7	<b>成果（有効であったこと）</b> ・インターネットと本を選択できるようにすることで、自分に合った学習形態を選択することができた。 ・オクリンクのカードに関係サイトの URL を添付し送付しておくことで、効率よく課題に対する解決方法を考えられることができた。 ・オクリンクで全員の考えを共有することで、他のグループの考えを参考にすることができていた。
8	<b>課題や改善点</b> ・「すぐに実践できること」「自分たちでもできること」などの視点をもたせることでより、自分事として問題をとらえることができたと考える。

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	七尾市立中島小学校6年
2	教科名 ・道徳科「手品師」
3	本時の目標 ・大劇場のステージに立てるチャンスを断り、男の子との約束を守った手品師の誠実さに触れることで、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。
3	使用したアプリ ・オクリンク
4	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・補助発問 (2) 展開 (学び合い) シンキングツール (バタフライチャート) に書き表す ・ジレンマを取り扱うため、左右にそれぞれの気持ちを書くだけでなく、思いの強さのグラデーションがわかるようにできるようにした。 (3) 終末 ・ふりかえりをノートに書く
5	児童・生徒の様子 (振り返り、写真、タブレットの画面など) 
6	成果 (有効であったこと) ・教師が児童の提出をチェックするだけでなく、手元で友達がどんな気持ちを表現しているか確認できるようにした。
7	課題や改善点 ・手元で児童が確認するだけでなく、一度教師が大型モニターで全員の考えをスライドしながら見る時間をとれば児童の考えもさらに広がったり、逆に考えを収束させたりすることでもできたかもしれない。





## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	七尾市立能登島小学校6年
2	教科名 ・道徳科「ロレンゾの友達」
3	本時の目標 ・3人それぞれの対応の在り方やそれぞれの考えについて足りない点を考えるなかで、よりよい友達関係を構築するためには、信じる事が大切であることに気づき、互いに信頼し、友情を深めようとする心情を育てる。
4	使用したアプリ ・ムーブノート ・Forms
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・「本当の友達ってどんな関係？」など、アンケートの結果を提示する。 (2) 展開（学び合い） ・ロレンゾに対する3人の共通する思いをムーブノートに書き出し、キーワードを集計する。 ・「かしの木の下で話し合ったことを口にしなかったのは、3人にどんな思いがあったからか」について考える。 ・「ロレンゾがもし3人の話を聞いたら、誰を本当の友達だと思うか」について、Formsを使ってアンケートをとる。 (3) 終末 ・本当の友達とはどのような関係かについて考える。 ・ふりかえりをノートに書く。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） 
7	成果（有効であったこと） ・ムーブノートのキーワード集計機能やFormsのアンケート機能を使うことで、児童の考えの集計が簡単に素早くできた。 ・アンケート結果を見やすく提示できた。
8	課題や改善点 ・タブレットの画面を児童に開示するタイミング。ペアやグループで考えを交流するときだけでなく、全体で発表しているときにも画面共有すると見やすい。 ・キーワード集計は結果の発表で終わらせるのではなく、あくまでも話し合いを進めるツールの一つとして、対話のきっかけになるようにする。 ・小グループでの話し合いが多かったが、児童に意見反映の仕方を選択させるなど、ICTの使い方を考えていくとよい。

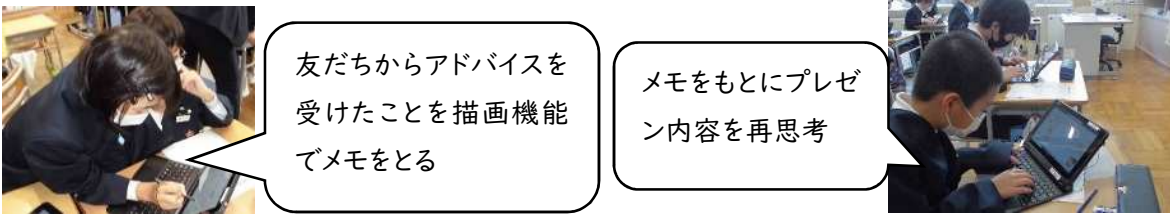
## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1 中能登町立鹿西小学校3年	
2 教科名 ・ 外国語活動「This is for you.」	
3 本時の目標 ・ 色や形など、身の回りのものについて、欲しいものをたずねたり答えたりしている。	
4 使用したアプリ ・ ミライシード (オクリンク)	
<p>5 授業内容:簡単な流れ</p> <p>(1)導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作成したカードを提示する。</li> <li>・「クリスマス(グリーティング)カードを作ろう!」と課題を設定する。</li> </ul> <p>(2)展開(学び合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「What do you want?」「How many?」を使ってやり取りする。 オクリンクでカードを作るために必要な材料を集める。</li> <li>・「This is for you.」を使って集まった材料を相手に送信する。</li> <li>・集まった材料を使ってクリスマスカードを作る。文字入力や書き込み、コピーの機能を使って作成する。</li> </ul> <p>(3)終末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「What do you want?」「How many?」「This is for you.」を復習する。</li> <li>・次回、作成したカードを渡し合うことを伝える。</li> </ul>	
6 児童・生徒の様子(振り返り、写真、タブレットの画面など)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料をそろえるために何度も交流していた。「This is for you.」といいながら相手に送信することも、楽しんでた。送られた材料の大きさを自在に変えたり、背景の色を変えたり、文字を記入したりできるので、オリジナルカードを作ることができた。</li> </ul>	
7 成果(有効であったこと)	
8 課題や改善点	



## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1 中能登町立鹿島小学校2年	
2 教科名 ・生活科「もっとなかよし まちたんけん」	
3 本時の目標 ・地域には自分たちの暮らしを豊かにしてくれる人々やすてきな場所がたくさんあることに気付くことができる。	
4 使用したアプリ ・SKYMENU (発表ノート)	
<p>5 授業内容：簡単な流れ</p> <p>(1) 導入 ・発表ノートで作成したワークシートを後で修正できるように紙に印刷しておく。</p> <p>(2) 展開 (学び合い) ・自分の発表する内容の中で、インタビューした人の気持ちを含めた発表にする必要があることに気付かせ、発表ノートを修正する。</p> <p>(3) 終末 ・今まで経験した発表の仕方を確認しながら、次時に向けた気持ちの準備をする。</p>	 <p>インタビューしたばしょ 肉のとりき</p> <p>しつもん どんな人にお肉まかってほしいですか。</p> <p>わかったこと お肉がずきな人だけじゃなくて中のと町にいる人町じゆうにいる人にもかってほしい。</p> 
6 児童・生徒の様子 (振り返り、写真、タブレットの画面など) ・児童の中には、「タブレットの方がきれいに直すことができる。」という発言が多く、児童のタブレットを活用した意欲も高まっている。	
7 成果 (有効であったこと) ・修正をする際、どの部分に付け足しをしたりするかを赤鉛筆で加筆することが効果的と考え、タブレットで作成したワークシートを紙で印刷した。 ・紙上に印刷したワークシートに加筆することでタブレット上での修正する場所が明確になり、修正にかかる時間を短縮することができた。	
8 課題や改善点 ・児童のタブレット操作にまだスムーズに行うことができず、活動に時間がかかってしまった。動作が遅くなっている時は少し待つ等、タブレット端末の操作について指導を続けていく必要がある。	

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

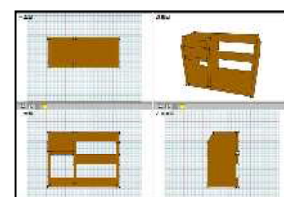
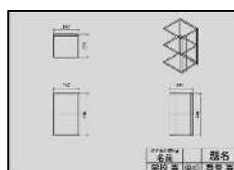
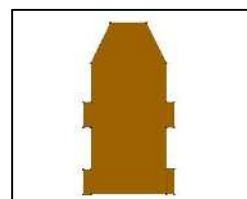
1	中能登町立鳥屋小学校5年
2	教科名 ・総合的な学習の時間「お米の魅力を発見・発信しよう」
3	本時の目標 ・調べた情報を友達に伝えたり、聞き取った情報が取捨選択したりできる。
4	使用したアプリ ・PowerPoint
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・電子黒板で、保護者へのアンケート結果を表示し確認する。 (2) 展開（学び合い） ・教師が作った誤答のスライドをもとに話し合いの視点を明確にし、スライドの改善点について話し合わせる。 ・友達と自分の作ったスライドを見合い、気付いた改善点について描画機能を使ってメモを残していく。終末の際に、自分で修正がしやすいよう、修正内容や友達から受けたアドバイスを簡単にペンで書きこむ。 (3) 終末 ・メモをした改善点をもとに、自分のスライドを修正する。さらに、Googleで新しい情報を調べたり、必要な情報を取捨選択したりして、目的に応じてよりよいスライドになるようにまとめる。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） ・全員が描画機能を使い、プレゼンに記入し、改善するために考える姿が見られた。 ・プレゼンの文章を焦点化し、よりよいプレゼンにしようとしていた。 
7	成果（有効であったこと） ・プレゼンに描画機能を使って直接メモをすることで、メモをもとにした具体的な改善について話し合いをすることができた。また、描画機能は何度も書き直しができ、改善へ生かせることがよかった。
8	課題や改善点 ・描画機能によって直接どこを改善すべきか可視化することができたが、内容の精選が十分にできないグループもあった。どこでつまづいているのかを全員で共有し、アドバイスをし合う活動を入れてもよかった。

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践



1	七尾市立七尾中学校3年				
2	教科名 ・社会科「裁判員制度と司法制度改革」				
3	本時の目標 ・資料を的確に読み取って必要な情報を取り出したり、争点を整理したりして、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。				
4	使用したアプリ ・オクリンク				
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・裁判の争点とゴールの姿を可視化して共有することで、見通しをもてるようにする。  (2) 展開（学び合い） ・執行猶予の有無について、自分の考えを整理し、グループで意見をまとめる。  (3) 終末 ・全体の意見交流を経て、自分の意見を再構築する。				
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 5px;">理由 たぬきがおばあさんを殺さなければうさぎもこんなことをすることはなく、原因はたぬきにあるから。</td> <td style="background-color: #e31a1c; color: white; padding: 5px;">理由 ウサギは狸をオールでたたいて殺そうとした。殺人未遂。大やけどを負わせるなど数々の暴行</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e31a1c; color: white; padding: 5px;">理由 ウサギの敵討ちは、度を超えていたり、ウサギの犯行を知らなかったおじいさんが、監禁するのは軽しいと思ったから。</td> <td style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 5px;">理由 今回は狸が殺すことが犯行の目的であり、現在、ウサギに再犯の動機は見つからないから</td> </tr> </table> </div> </div>	理由 たぬきがおばあさんを殺さなければうさぎもこんなことをすることはなく、原因はたぬきにあるから。	理由 ウサギは狸をオールでたたいて殺そうとした。殺人未遂。大やけどを負わせるなど数々の暴行	理由 ウサギの敵討ちは、度を超えていたり、ウサギの犯行を知らなかったおじいさんが、監禁するのは軽しいと思ったから。	理由 今回は狸が殺すことが犯行の目的であり、現在、ウサギに再犯の動機は見つからないから
理由 たぬきがおばあさんを殺さなければうさぎもこんなことをすることはなく、原因はたぬきにあるから。	理由 ウサギは狸をオールでたたいて殺そうとした。殺人未遂。大やけどを負わせるなど数々の暴行				
理由 ウサギの敵討ちは、度を超えていたり、ウサギの犯行を知らなかったおじいさんが、監禁するのは軽しいと思ったから。	理由 今回は狸が殺すことが犯行の目的であり、現在、ウサギに再犯の動機は見つからないから				
7	成果（有効であったこと） ・二項対立の各自の意見を、色分けしたカードで可視化して一覧で表示することで、教師の見取りを容易にするとともに、生徒も文字言語化された他者の意見にふれることができるようにした。				
8	課題や改善点 ・授業者のコーディネートだけでは、文字言語化されていない詳しい考えや各自の気になる意見、疑問点などを十分に引き出すことができていない。そのため、他者の意見を知る段階にとどまり、ねらいにせまる主体的で深い学びに発展しない。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTで集約している場面でも、全生徒分の意見が集まるのを待たずに見取りに行く。</li> <li>・ICTで意見を集約したあとに、生徒同士のコミュニケーションにつなげる工夫・手立ての開発が必要。</li> </ul>				

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践


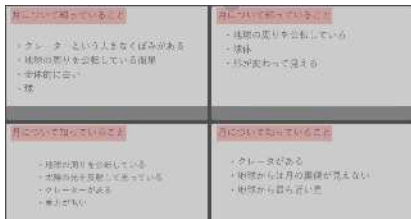
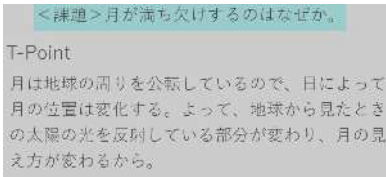
1 七尾市立七尾東部中学校1年
2 教科名 ・ 技術・家庭科（技術分野）「設計図での構想品の作成」
3 本時の目標 ・ 第三角法による設計での良さやその見方を読み取り、構想品の設計に生かすことができる。
4 使用したアプリ ・ Shade3D (CAD)、オクリンク
<p>5 授業内容：簡単な流れ</p> <p>(1) 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の全体像がわからない設計図を見せる。</li> <li>・ 第三角法で表す必要性をおさえ課題を確認する。</li> </ul> <p>(2) 展開（学び合い）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品をどのように見ればよいか、各図面の特徴をおさえる。</li> <li>・ 回転や移動を使い、部品がどのように動いているか読み取り、生徒同士で意見交換する。</li> <li>・ 考えるヒントとして、データ資料をオクリンクで共有しておく。</li> </ul> <p>(3) 終末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三角法で設計する際に必要な視点をおさえ、本時をまとめる。</li> <li>・ 作品をばらしたデータを生徒に送り、ばらばらになった部品を元の位置に戻すことによって作品を組み立ててみる。</li> </ul>
<p>6 児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリのあらゆる機能を使って部品を動かしていた。</li> <li>・ 自分のしたいようにならずとも、いろいろやってみようとする生徒が多かった。</li> </ul> <p>構想品が完成したものの写真 →</p>
<p>7 成果（有効であったこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計図で描くより、どういう作品になるのか立体的に把握することができた。</li> <li>・ 構想品をつくるときに材料を用意する必要がないので、タブレット1台で容易に組み立てることができた。</li> </ul>
<p>8 課題や改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実物を触って動かしているわけではないので、空間把握能力が乏しい生徒にとっては、部品がどのように動いているかイメージするのが難しそうであった。</li> <li>・ 動かして終わる生徒が多かったため、第三角法の見方を使って、生徒に考えさせ、思考が深まるような展開・学び合いとする必要がある。</li> </ul>



# 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践



1 七尾市立能登香島中学校1年																																											
2 教科名 ・数学科「平面図形」																																											
3 本時の目標 ・基本的な作図を利用して75°の角を作図する方法を考え、式や図を使って説明する。																																											
4 使用したアプリ ・デジタル教科書 ・Excel																																											
5 授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・90°、60°の作図で基本の作図を振り返る。 ・75°の作図をするにはどうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。 (2) 展開(学び合い) ・個人思考の時間に見通しをもって進められない生徒は、タブレットでアニメーションや図を参考にしながら進める。 ・75°の作図方法を、式と数学の用語を使って2人以上の友だちに説明し、根拠を明らかにして作図をしたり、多様な考えに触れたりする。 ・ハンドサインでどの方法がよいと感じたかを問いかけ、そのよさを確認する。 (3) 終末 ・振り返りをExcelに記入する。その際、何をしたかではなく何を考えたか、また、新たな気づきや発見、授業での変容などを振り返る。																																											
6 児童・生徒の様子(振り返り、写真、タブレットの画面など)																																											
【デジタル教科書】																																											
	【生徒の振り返り】																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>217</th> <th>数習17</th> <th>75度の作図</th> <th>00:00</th> <th>00:00</th> <th>00:00</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> <tr> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> <td>00:00</td> </tr> </tbody> </table>	217	数習17	75度の作図	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00
217	数習17	75度の作図	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	作図、75度の角を作図するには、どうすればよいか、作図できそうな角度をもとに式や数学用語を使って見通しをもつ。	00:00	00:00	00:00																																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の図形を苦手としている生徒が非常に多い。そのためデジタル教科書の考え方でヒントを得たり、アニメーションで作図を確認したりすることができるようにした。そして、その後の交流による説明の活動につながるようにした。</li> </ul>																																											
7 成果(有効であったこと) <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書のヒントをもとに、基本の作図を使いながら思考錯誤している様子が見られた。</li> <li>・基本の作図が定着していない生徒は、アニメーションを見ながら自分のペースで作図していた。</li> <li>・個人思考の途中からタブレットを活用するなど、自分でタブレットが必要かどうかを考えていた。</li> <li>・電子黒板を使って、手順によって色を変えながら説明することで、視覚的な理解につながった。</li> </ul>																																											
8 課題や改善点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒントの図やアニメーションを見ることで、考える場が失われる。</li> <li>・友だちとの交流の際に ICT を活用することで、多様な考えに効率的に触れられる機会を設けることができたかもしれない。</li> </ul>																																											

## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	七尾市立中島中学校3年
2	教科名 ・理科「月の満ち欠け」
3	本時の目標 ・月の満ち欠けが起こる理由を、月の公転と太陽、地球の位置関係をもとに説明できる。
4	使用したアプリ ・ミライシード（オクリンク）
5	授業内容：簡単な流れ (1) 導入 ・月について知っていることを問いかけ、考えをオクリンクに書き込む。 ・書き込まれた内容をもとに本時の学習のキーワードを引き出し、全体に提示する。 (2) 展開（学び合い） ・月の公転モデルを使って、月が公転するにしたがってどのような形に見えるかを考え、ワークシートに記録する。 ・いくつかの班に結果をシートに記入させ、全体で共有し確認する。 (3) 終末 ・モデル実習をもとに、月の満ち欠けが起こる理由を文章で記述し、オクリンクに書き込む。 ・学習の振り返りをする。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） ・モデル実習の様子 考えやまとめの交流（オクリンク）
	  
7	成果（有効であったこと） ・自分の考えやまとめの文章をオクリンクに書くことで、短時間で生徒各個人の考えを集約したり友人の考えや表現を他の生徒が知ったりすることができ、実習や実験などの時間を多く確保することができた。
8	課題や改善点 ・今回の実践では意見交流や集約のための利用であり、教科の特性に大きく関わる部分はなかったが、今後は実験や観察などでの活用を考えていきたい。



## 令和4年度 有効であった ICT 活用による授業実践

1	中能登町立中能登中学校1年
2	教科名 ・技術・家庭科（家庭分野）「私たちの住生活（災害への対策）」
3	本時の目標 ・地震の対策として、安全な家具の配置場所を理解する。
4	使用したアプリ ・オクリンク（ミライシード）
5	授業内容：簡単な流れ （1）導入 ・前時の学校の危険な場所の調査を振り返り、既習の経験を活かして、部屋の家具の配置を考えることを理解する。 （2）展開（学び合い） ・オクリンクで送られたカードの部屋の配置図を見ながら、危険な箇所を見つける。 地震の際にも安全な家具の配置をグループで学び合う。 ・班ごとに発表を行う。 （3）終末 ・振り返りをする。
6	児童・生徒の様子（振り返り、写真、タブレットの画面など） 
7	成果（有効であったこと） ①タブレット内で家具の配置を決めるため、容易に設置や修正を行うことができた。 ②考えた結果を簡単に共有でき、学びの過程をカードに残していくことで、評価に生かすことができた。 
8	課題や改善点 ・家具の大きさを固定して、考えられるようにするとよかった。

## 第63回 石川県視聴覚教育研究大会七尾・鹿島大会実行委員会

大会実行委員長	佐野 康子	七尾市立和倉小学校	校長
石川県小中学校視聴覚研究協議会会長	濱田 貴宏	金沢市立額小学校	校長
副実行委員長	七尾市学校教育研究会会長	種谷 多間	七尾市立天神山小学校 校長
	鹿島郡学校教育研究会会長	宮下 慶子	中能登町立鹿島小学校 校長
	小学校会場	横町 昌宏	中能登町立鹿西小学校 校長
	中学校会場	山原 真吾	七尾市立七尾中学校 校長
大会事務局	事務局長（庶務部長）	福島 朋尚	七尾市立和倉小学校 教頭
	副事務局長（運営部長）	中村はじめ	中能登町立鹿西小学校 教頭
	副事務局長（研究部長）	一瀬 久芳	七尾市立七尾中学校 教頭
<b>【庶務部】</b> <部長> 福島 朋尚 七尾市立和倉小学校 <副部長（実行委員）> 三木 須 中能登町立鹿島小学校 遠藤 侑真 七尾市立七尾中学校	<拡大実行委員> 中多 昭太 七尾市立天神山小学校 出島 秀旺 七尾市立東湊小学校 清水 史子 中能登町立鳥屋小学校 酒井 香織 七尾市立七尾東部中学校 永谷 雅俊 七尾市立能登香島中学校		
<b>【運営部】</b> <部長> 中村はじめ 中能登町立鹿西小学校 <副部長（実行委員）> 櫻井古都波 七尾市立和倉小学校 佐原 友郎 中能登町立鹿島小学校 政氏 克仁 中能登町立中能登中学校	<拡大実行委員> 中澤 優太 七尾市立山王小学校 出村 宇宙 七尾市立朝日小学校 澤田 凌平 七尾市立中島小学校 桶成 徹 中能登町立鹿西小学校 丹後 孝昭 七尾市立中島中学校		
<b>【研究部】</b> <部長> 一瀬 久芳 七尾市立七尾中学校 <副部長（実行委員）> 松中 貴裕 七尾市立田鶴浜小学校 岩本 華穂 中能登町立鹿島小学校 南 昇吾 七尾市立七尾東部中学校	<拡大実行委員> 土井 綾乃 七尾市立能登島小学校 谷中 愛 七尾市立石崎小学校 泉 秀生 七尾市立小丸山小学校 真木 拓郎 中能登町立鹿西小学校		

# 校舎平面図

